

# Case Study

支部ケース・スタディ

東海支部

## GKI岐阜県人会インターナショナルと連携した取組み

### シーシーエヌ(株)

コンテンツ部 デジタル戦略課

成瀬 瞬



### 年末年始特別番組の制作

シーシーエヌ(株)(CCN)では、毎年「岐阜のお正月」をテーマに年末年始特別番組『どんときたよ』を生放送し、2022年には14年目を迎えました。

これまでに、エリア内の神社での年越し生中継や、提供エリアを飛び越えて日本各地に住む岐阜県人を探しに行くなどの特別企画を実施しました。番組の企画段階である2021年の夏は、今以上に新型コロナウイルス感染症が猛威を振るっており、接触回避や移動制限の観点から従来のような番組制作をすることが困難で、年末年始に好転しているかもわからない先行き不透明な状況でした。そんな中、日常の番組取材をきっかけに2021年5月に設立された『GKI(岐阜県人会インターナショナル)』の第1回オンライン定例会の取材依頼が舞い込んできました。

### GKI(岐阜県人会インターナショナル)への協力依頼

県人会とは、出身都道府県から離れた地域で生活する人同士で結成される団体で、岐阜県人会においては、カンボジアやジャカルタ、台湾等のアジア圏や、カナダやニューヨーク、ハワイなどの北米圏、ブラジル、オーストラリアなど様々な地域で活動を行っています。GKI(岐阜県人会インターナショナル)は、そんな岐阜県人会の集合体で世界17カ国(北米、南米、アジア、欧州、オセアニア、日本)に散らばる26の岐阜県人会が加盟し、郷土愛を軸に岐阜を盛り上げ、岐阜から世界に羽ばたきたい人を応援しています。

番組取材やオンラインでの交流を重ねGKIと友好関係を築いたことから、国外で活躍する岐阜県人が多数いるということを感じ、新型コロナウイルスによりリアルな往来が困難でも、オンラインであれば岐阜と世界、人と人を繋げることができるということから、地元・全国・世界で生活している「岐阜県人」を繋ぐというテーマで番組への参加を打診しました。

GKI長屋会長(サンパウロ在住)・水谷副会長(ロサンゼルス在住)には岐阜県人会への番組参加呼びかけをご快諾頂き、ふるさと岐阜県人会の池村会長は、スタジオでのアドバイザー出演をご快諾頂きました。

### 世界中の岐阜県人とオンライン新年会

番組のタイトルを『どんときたよ2022～世界中の岐阜県人とオンライン新年会～』とし、世界各国・日本全

国に住む岐阜県人がオンラインで集合し、現地の年越しの様子や文化の違いなど紹介する番組をテーマとしました。岐阜県人との接続はコロナ禍以降急速に普及したZoomを使用。誰もが利用できるツールを用いることで、現地での機材準備や通信費用にかかるコストを大幅にカットすることができました。

また、Zoomでは複数人の映像をPC上からマウス一つで切り替えることができるため、通常の番組のように複数のカメラの設置や複雑な配線を構築する必要もなく、操作に特別な修練も必要ありません。

むしろ、Zoomにおける操作では20代前半の社員の方が手慣れており、中堅社員が指示を仰ぐシーンもありました。

海外の出演候補者との事前打ち合わせでは、海外とのやりとりが初めてということもあり、サマータイムや午前・午後の認識ズレが発生。メールにおいても時差の影響で確認する時間に半日のズレが生じ、スムーズな連絡がとれない等のトラブルにも見舞われましたが、当日は30名を超える岐阜県人がZoomで登場し、番組を盛り上げました。



Zoomにより世界の岐阜県人とつながる

## 巻き込み型の番組PR

前述の通り、2021年は新型コロナウイルス感染症が猛威を振るっており、遠方からの帰省や、正月に親しい友人・知人と会うことさえも憚られる状況が続いていました。

番組のタイトルに冠している「世界中の岐阜県人」には、海外に住む岐阜県人だけでなく、当然のことながら岐阜県内に住む岐阜県人・岐阜県外に住む岐阜県人も含まれます。多くのイベントが中止や延期となる中で、自宅にいながらも参加した人や企画を見た人が、心温まる気持ちになれるようにと、番組と並行して岐阜県人同士が年賀メッセージを新聞に掲載できる参加型の企画を立ち上げました。

年賀メッセージは、企画への参加呼びかけと同時に番組PRとなるよう、番組特設サイトへ集約。CCN提供エリア外で加入できない状況であっても番組が視聴できるよう、You TubeでのLIVE配信及びアーカイブ配信を予定していましたが、これらも特設サイト上に埋め込むことで、告知のURLや更新するWEBページが一つとなり、管理を簡素化・更新漏れがないようにしました。「〇〇にお住まいの岐阜県人の方へ」などの、当事者であれば目につくキーワードを用いて企画への参加を募りました。また、当事者に届かなくとも、シェアやリツイートなどの拡散力に期待してSNSを中心に告知活動を実施しました。

岐阜県人に関する番組は公共性があるとのことで、行政の広報担当者にも好評で、広報紙にも四誌に掲載いただけました。GKIからの呼びかけやSNS発信により、特設サイトへのアクセスは県内よりも県外からの方が多く、エリア内に住む方が県外の知人へ知らせてくれたなどの声もあり、狙った通りの波及効果があったと言えます。結果として100名を超える募集があり、元日の紙面を飾りました。

しかし、全国へのWEB広告設定においては、関東圏からのアクセスウェイトが高く、地方からのアクセスが低く、募集に偏りが出たため、エリア毎に費用設定しコントロールできたほうが良かったと思っています。

誠に勝手ながら、元日は岐阜県人が集まる日とさせていただきます!

チャンネルCCN 年始特別番組 **どときたよ** 2022

世界中の岐阜県人とオンライン新年会

2022年1月1日11時より 地デジ12chで生放送

オンラインスタジオ観覧 YouTubeで視聴する

元日の新聞への見開き掲載

## 番組の構成について

30名を超える岐阜県人が参加した本番当日でしたが、企画を進める中でいくつかのルールを設けました。

### ①演出しない ②台本は作らない ③「今」を共有する

MCとの事前打ち合わせでは、番組の概要のみを説明し、本番が3時間の生放送であるにも関わらず台本は2枚だけでした。MCは、どの国の岐阜県人が出てくるのか、その岐阜県人はその国で何をしているのか、次にどんなことが起こるのかなど、あえて一切把握していない状況での番組がスタートしました。

これは、MC自身も世界の岐阜県人と相対するのを本番当日とすることで、今起きていることを視聴者と同じ目線で驚き、笑い、世界の岐阜県人を感じて欲しかったためです。

番組では、ユネスコ無形文化遺産である「郡上踊り」の演目の一つである「かわさき」の生唄をバックに各国の岐阜県人が踊ったり、日本と現地との時差を利用し、番組放送中にブラジルの年越しを岐阜で祝ったりと、岐阜と世界が繋がる企画も行いました。

話の広げ方や展開がMC頼みとなった場面も多々あり、「番組」として粗さは目立ったかもしれませんが、予定調和ではなく、リアルとライブ感を共有する番組となりました。



世界各国から番組に参加する岐阜県人



岐阜市・郡上市・ブラジルで「郡上踊り」を踊る岐阜県人

## さいごに

今回の番組制作においては、番組制作経験がほぼないメンバーをコアメンバーに据えることで、全部員から意見を聞き出すなどして、部内全体の参加意識が向上。今までにない自由な発想もあり、年始番組で採用されなかったアイデアを別番組で活用することもできました。

まずは理想を語り合い、出たアイデアを決めたルールから突出しないよう現実的な案に調整したことが、番組成立のポイントだったように思います。

こうした取り組みは、各方面でも評価され、「第50回 岐阜広告協会賞 新聞広告部門」金賞、「第48回 日本ケーブルテレビ大賞 番組アワード コンペティション部門」審査員特別賞、「ケーブル・アワード2022 第15回 ベストプロモーション大賞」グランプリの3つの賞を受賞しました。

放送終了後もGKIとの交友を重ね、毎週の情報番組にも出演いただき、2022年10月には、「第1回岐阜県人世界大会」の配信・映像演出業務を受注する等のマネタイズにも発展しました。

今後もGKIとの交流を重ね、国内・世界で活躍する「岐阜県人」を応援することはもちろん、GKIとの連携による地域の子供達へのグローバル教育への一助や、行政との連携による地域社会におけるケーブルテレビ局の存在価値向上を目指したいと思っています。